

Abstract

AROMA RESEARCH No.56 (vol.14/No.4)

ベチバー根の揮発成分のビジランス低下抑制効果

清水邦義、深川未央、松本清、山本篤、松原恵理、石川洋哉、北村真吾、
梅ちか子、畠山知子、永野純、岡本剛、大貫宏一郎

〈要旨〉

→ ベチバーはイネ科の多年生植物で、根は強い香りを有し、精油原料として利用されている。インドネシア等の植生する地域では、ベチバー根を、すだれや敷物などの材料として使用されていることから、本稿ではベチバー根自身から揮発する成分に着目した。GC-MS 分析の結果、揮発成分の大部分は高度に酸素置換されたセスキテルペン類であることが示された。また揮発成分の吸入時におけるビジランス（持続的注意力）試験を実施し、その際の心拍変動や脳波の周波数成分等に及ぼす影響評価、気分検査、印象評価を実施した結果、揮発成分濃度が低い方が反応時間の増加は抑制されるとともに、心拍数の増加と交感神経活動の亢進が観察され、注意力の維持作用が明らかとなった。

〈キーワード〉

→ ベチバー根、GC-MS、ビジランス、心拍変動、かすかな香り